

6. 抗酸化物質の人尿中のクレアチニンのヒドロキシル産物に対する影響 ビタミンCとババシア発酵食品（カリカ）の効果（予備研究）

○吉柳一正¹、中島基雄¹、平山 暁¹、藤森 憲¹、片山幸一¹、森 昭胤²、今尾充了³

¹筑波技術大学東西医学統合医療センター、²岡山大学名誉教授、³株式会社 清度

【目的】

様々な抗酸化物が疾病の予防あるいは治療効果を期待して投与されている。様々な、抗酸化作用によると考えられる代謝の変動は報告されているが、各種抗酸化物質の摂取が、人の酸化ストレスにどの程度の影響を与えているのかとつき合わせた検討は少ない。

私どもは、抗酸化作用が知られているラフィンの殻から得られる重合ポリフェノールとその低分子化ポリフェノール（Oligonol）の投与による人の酸化ストレスへの効果を検討し、酸化ストレスが高い状態では酸化ストレスを抑制し、低い状態では逆に酸化ストレスが増加することを報告した。

そこで、代表的な抗酸化物ビタミンCと抗酸化効果があるポリフェノールを多く含む未熟ババシアの発酵食品カリカの投与がどの様な影響をもたらすのか検討した。

【方法】

ビタミンCを10グラム摂取前及び後3時間目の尿を採取し、尿中クレアトール/クレアチニンを測定した（3名）。カリカは実験1として短期効果（3包9gを摂取1時間後）4名、中期1W-3W、毎日3包を就寝前摂取し、早朝尿を採取した。これに加えカリカ実験2では3包（9グラム）の摂取前、1、2、3時間の尿を採取し、尿中クレアトール/クレアチニン（4名）。4名を追加した。

【結果】

Oligonolの摂取と同様に、酸化ストレスの高い状態の人は、ビタミンC投与により尿中クレアトール/クレアチニンは低下した。カリカも短期でも中期でも同様に酸化ストレスが高いほど、尿中クレアトール/クレアチニンは減少し強い相関係数が得られた。しかし、摂取で尿中クレアトール/クレアチニンは増加するケースは認められなかった。

【考察】

ビタミンCとカリカは被験者が少ないので今後例数を増やし再検討しないと結論は出せないが、抗酸化物の効果は摂取するヒトの酸化ストレス状態で、ビタミンCでもカリカでも認められた。